

第2回出雲採択地区教科用図書採択協議会会議録

期 日 平成30年7月26日（木）13：30～16：00

場 所 出雲市役所 401会議室

出席者 各市町教育委員会教育長4名、保護者等代表3名、出雲教育事務所指導主事1名、事務局：出雲市教育委員会学校教育課長、主査、課長補佐、主任（教科書担当）

事務局 それでは、第2回出雲採択地区教科用図書採択協議会を開催します。

事務局 それでは会に入ります。まず、会長あいさつをお願いします。

会長 皆さんこんにちは、大変暑いなか、またお忙しいなかご出席いただきありがとうございます。

今日は2回目の採択協議会として、今日のところで採択する教科書を決定していきたいと考えています。

本日の協議会に先立ち、研究調査員に集まっていたいただき教科書の研究調査を行っていただきました。

当初は、研究調査会を1回の予定でありましたが、新たな教科でありますし、冊数、分量とも多く、2回の研究調査会を開催されました。公私共にお忙しいなか、調査研究をいただきました。

本日は、選定に必要な資料により代表研究調査員より結果報告をいただき、それを受けて協議して教科書の選定を行います。

些細なことでも構いませんので、疑問に思われたことは質問していただき、それぞれの委員の皆さまの意見考えをまとめて教科書選定を行いたいと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局 それでは、協議に入る前に、本日の資料について、事前にお配りしています「第1回採択協議会会議録」及び「選定に必要な資料」をお忘れの方はおられますか。

では、協議に入りたいと思います。以後の進行は、本会規約第10条第2項により会長にお願いいたします。

会長 協議事項①の第1回採択協議会の会議録について、何かご意見等ございますか。

※会議録、了承

会長 それでは、続きまして協議事項②研究結果の報告に入ります。代表研究調査員から報告を受けた後、採択協議会として採択する教科用図書の選定を行います。

それでは、報告をよろしくお願いします。

代表研究調査員 よろしくをお願いします。

はじめに全体を通して、研究調査に関して感じたことをお話させていただきます。

新しい教科道徳というような形での教科書採択となりました。これまで道徳については副読本という形で授業を行ってきた、教科書という形になるのは今回が初めてであります。

教科については、これまで教科書というものがあってそれを用いて授業を進めてきたわけですが、道徳については教科書ではなく副読本であり、それぞれの学校、教員が創意工夫をしながら授業を進めてきたのが実情だったと思います。

来年から教科化となり教科書となることについて、どういう教科書がふさわしいのかということについては、道徳の教科書そのものについては、今まで触れたこともなく非常に責任の重さを感じました。

そして8社の教科書を比較したがどれもすばらしい教科書であるということが言えます。

そうした中で、どういう視点で教科書を選定するため、次の4点の視点により考えました。

1点目は、初めての教科書ということで、子ども達がどんな教科書かわくわくドキドキするようなものであればいいなと感じた。それは、表紙や大きさを含め子ども達が受け取ったときにわくわくドキドキするような教科書であること。

2点目は、考えて議論する道徳の授業ということが一つのキーワードであり、この教科書を使って考え議論することができるような教科書を選んでいくこと。

3点目は、道徳が教科化になったという背景には、小中学校のいじめ問題が大きな要因の一つにもなっています。そのような、いじめ問題について各教科書会社がどのような形で取り扱っているのか、また、現代的課題についてどのように触れられているのか。

4点目は、出雲地区の採択ということであるため、出雲地区での特徴を考えたときに、出雲地区の特徴として、中学校における不登校問題、いじめ問題がどの学校も大きな課題である。そのいじめ問題が中学校1年生でピークを迎えるというところの中1ギャップの問題。中学校1年生の道徳の教科書でいじめ問題がどのように扱われているのか。それから、いじめ問題の背景として、学級の間人間関係として、最近多いSNSのトラブルや、社会的に取り上げられているLGBTについて、近年、外国籍の生徒が増えており異文化理解などの点も必要と考えている。また、中学校だけでなく小学校も同様ですが、50代後半の教員が大量に退職をしていて、新規採用の教員が増えてくるなかで、若い教員が道徳の授業を行ううえで使いやすい教科書となること。

以上の視点を考慮し選定を行いました。

まずは、A社です。

写真が多用されており、イラスト的にもきれいであり、子ども達も親しみを持って教科書を見ることができると感じました。

それから、いじめ問題については、いろいろな形で資料を掲載されており、学年の段階を追って、イラストを用いていじめはどれだろうかと考えさせる工夫がありました。

考え議論する道徳という点で、「P4C」という円形になってみんなで意見を言うてみようというような形を示すなど工夫がされています。

それぞれの資料の最後には、「考えてみよう」として子ども達でグループ討議するような資料があります。

8社の中では、一番生徒の作文、人権作文とかに掲載されている資料が多く、子ども達にも身近な教科書と感じました。

評価という視点では、巻末に「自分の学びを振り返ろう」と各学期の振り返りができるような構成となっており優れている教科書です。

続いて、B社です。

年間35時間の道徳の授業を行うなかで、学期毎の目安があり、年間35時間の授業が行えるような工夫がされている教科書です。

発問について、それぞれの資料の終わりのところに、「学びに向かうために」というコーナーが設けられ、導入・展開・まとめを分かりやすくするなどの工夫がされています。

この教科書は、セクシャル・マイノリティの教材が2年生に掲載されています。いじめもさまざまな形がある中で、LGBTのことについても触れられている教科書です。

そして、現代的な資料を扱うという意味では、東日本大震災での「釜石の奇跡」という題材が取り上げられ、釜石東中学校の生徒が子ども達や老人ホームの高齢者を引き連れて津波から逃げるという実話を資料として掲載してあり工夫がされています。

学期毎の振り返りもあり、教員としては目安を持ちながら授業を進めていくことができ、優れている教科書です。

続いて、C社です。

資料の最後の部分に、「学びの道しるべ」として1～3の発問があり、発問順に考えることで、道徳の授業がスムーズに進むような工夫がされています。

新しい道徳では、体験してみるというような点もあり、そういった中でC社は、各学年で「やってみよう」というページが設けられていて、役割演技など体験ができるような工夫がされています。

飢餓問題について、「ハゲワシと少女」が取り上げられており、この題材については、さまざまなことを考えさせられる資料であり、これまでも多くの授業でも取り上げられており、この題材を取り上げたのはC社のみです。

あわせて、C社は「死刑制度」についても取り上げており、人の命をどのように考えていくかということを考えさせ、死刑制度について考えさせる工夫がされています。

一方では、こういう授業をするためには、教員の死刑に対する考えが必要であり、教師の力量が問われるような課題もあります。

この教科書の巻末には、1年間学んだことを生徒が記入し、それに対し保護者・教員が記入をするという工夫がされており優れている教科書です。

続いて、D社です。

D社は、国語の教員からは、国語の教科書が非常に優れているという評価があり、今回の道徳の教科書も国語的な読み物資料が多いと感じました。読み物資料を扱った道徳としてはとても良い教科書であると感じました。

イラストが非常にソフトで優しく、やわらかい雰囲気であると感じました。

新しい学習指導要領では、小中の一層の連携・接続も課題としてあり、C社はその課題も考慮し、小学校の題材を中学校1年生で勉強するような工夫がされています。

教科書の最初に共通のテーマが設定されており、4つのシーズンに分けて勉強するような工夫がされています。

他の教科書と比べフォントが小さく、読みづらいと思う生徒もいるかと感じましたが、読み物資料としては優れている教科書です。

続いて、E社です。

E社は、「道徳ノート」が作られています。道徳は、考え議論する道徳といわれていますが、やはり書くことが非常に大事になってきます。他社であれば、プリントを用意するなどしなければならなくなるが、「道徳ノート」はそのまま授業で使える点が特に優れています。教科書の題材の発問とノートが関連しており、イラストや写真も掲載するなど、ノートを使いながら学習できる工夫がされている。また、その下に「自分への振り返り」を設けてあり非常に使いやすく学習しやすいノート構成となっています。

また、いじめについて、1年生で3回、2年生で2回、3年生で1回学ぶようにしており、中1ギャップにあるように1年生でしっかり学べるように工夫されています。

資料を読んで考え議論するだけでなく、役割演技や体験をするような「プラットホーム」というコーナーが設けてあり、ペアやグループで議論したり、さまざまな形で役割演技をするような工夫がされています。読み物資料だけでなく体験をしていく道徳としては特に優れている教科書です。

続いて、F社です。

新しい学習指導要領では、伝統文化を大事にすることが挙げられていますが、F社はすべての学年の表紙に伝統文化を意識した写真を多く掲載している特徴があります。

各題材の最後には3つの発問があり、授業を進めやすくなっています。

この教科書には、LGBTに関する内容や障害者差別解消法の資料があり、いじめについては、クラスのことだけでなく、障がい者のことも含めて道徳で学ぶような工夫があります。

地域教材という点で、小泉八雲に関する内容を取り上げ、親しみのある題材を取り上げるなど優れた教科書です。

続いて、G社です。

他の教科書と比べ、A4サイズで大きく見やすくなっています。

「深めよう」というコーナーをそれぞれに設けてあり、学んだことをさらに実生活を交えて深めるような工夫がされています。

他の教科書では、題材の終わりに複数の発問を設定しているのに比べ、G社は1つの中心発問のみとし、あとは教員の創意工夫や生徒同士で考えさせる工夫がしてあり、形にとらわれずに、中心発問へどのようにつなげていくか教員が自由に授業を進めることができ

る優れた教科書です。

また、1年生の教科書に「金色の稲穂」という題材は、島根県大田市立北三瓶中学校でかかれた話が掲載してあり、出雲管内ではありませんが、同じ島根県内の話であり、郷土を意識した教材で、身近に感じることでできる優れた教科書です。

最後に、H社です。

H社も、「道徳ノート」が作られており、道徳ノートを使うことは教員として授業が進めるにあたって扱いやすいです。

同じ道徳ノートを作っているE社と違う点は、2、3つの題材をまとめた道徳ノートという形になっています。一つの題材についてのページではなく、いくつかの題材を学んだ後に道徳ノートを使うような工夫がされています。

題材の終わりには「考える・話し合う」として、発問が設けてあり教員が授業をするうえで使いやすいように工夫されている。そして、各学年の最後に情報モラルについて考える題材が設けてあり、それぞれの段階、次の学年に向かっていくにあたっての情報モラルについて必要なことを考えさせるような工夫がされている優れた教科書です。

以上で報告を終わります。

会長 ありがとうございます。

それでは、委員に皆さまからご質問などがあれば、よろしくお願いします。

委員 ノートがある教科書が2つあったが、教師として授業がそれに沿ってすべての35時間を行うようになるのではないかという恐れを感じました。研究調査で出された評価と反対の評価をしまして、ここまで示されると教員が考えることがなくなるのではないか。

代表研究調査員 研究調査の中でいろいろな話し合いをしました。ノートのあるなしに関わらず何らかのプリントを作ったりするだろうと思います。そうした中で、プリントを作っても、中心発問的なことを書いてそこに書かせるようになると思います。であれば、あえて教師がプリントを作って印刷をするより、全部使うかどうかは別として、道徳ノートを使った方が教員の授業準備がしやすいのかと考えました。

それから、プリントは生徒たちにファイルを配ってそれに綴じるようになるが、この道徳ノートに記入し振り返りをしているので、授業を通してどのような振り返りをしているのか見取ることができると思います。また、このノートを使うか使わないかはそれぞれの教員の授業の進め方の考え方だと思われるので、そういう意味でこういうものがあつた方が役に立つのではないかと思います。

また、50歳代後半のいわゆるベテランといわれる方々が退職をされていく中で、20歳代の教員が多くなって、こういう道徳ノートを用いながら道徳の授業のあり方を考えていくというのも良いのではないかと考えます。

この道徳ノートを使われなくても良いと思いますが、あれば雛形にできるという点では、この道徳ノートが非常に教科化になる初年度としては良いのではないかと判断しました。

委員 去年の小学校の教科書採択の際に3社が別冊を作っていました。それにとらわれやすいのでやめたという経過があつて、中学校の教科書では2社ある中で、やはりあつた方が良いという考えですか。

代表研究調査員 話し合いをした中では、中学校ではあつた方が良いと判断し、ノートの活用ということで話をしました。

それと、ノートを使うか使わないは別として、この教科書の優れているところは、いろいろな学習の進め方ができ、ロールプレイを含め教材が収められている点があるため、道徳の授業を進める上で参考となる題材が用意されている点を評価しました。

委員 例えばどれでしょうか。

代表研究調査員 1年生のP35に「いじめって何？」という部分があり、4者構造で書いてあり、「さかなのなみだ」を学んだ後に、P34で自分の立ち位置でどのように思うのかを考えるコーナーがあります。P43では「怒りの感情と上手につき合おう」としてアンガーマネジメントではないですが、怒りをどういうふうにより良い表現をするのか、自分の感情のコントロールなどを考えるような教材がプラットフォームとして用意されていて、他の教科書ではない教材となっています。

委員 このようなロールプレイが設けてあるのは、もう1社ある。

ロールプレイというのは、小学校でよくしますが、中学生では少し幼稚すぎると思いますが。

代表研究調査員 ロールプレイが良いのかどうかは分かりませんが。

委員 中学生が立場に立ってというのは、1年生、2年生あたりは効果的かと思いますが、3年生にはどうかと思う。まあ、二人同士で話し合うという形であれば効果はあるかと思われま。

会長 他にないでしょうか

委員 繰り返しになって申し訳ありませんが、小学校の道徳の段階で分冊型を否定したが中学校では採択するという、逆の判断をどうかと思う。

どの教科書も甲乙つけ難いと思われるが、小学校は全教科基本的に担任される先生、道徳が教科化されても担任の先生がもたれるなかで、今までの課題として同じ教材を授業参観で同じ時間されていても、アプローチの仕方が違ったり、教え方が違ったりという、それが良いのか悪いのかあるかと思いますが、そういう部分の均一化が図られるという意味では、分冊があったほうが良いのかなと、それが小学校と中学校の違いかと思えます。

はじめに現代的な課題の中で、LGBTの課題も挙げられましたが、E社には取り上げられていない中で、ポイントとして上げられたのにあえて取り上げていない会社を選ばれた整合性、考え方を教えてください。

代表研究調査員 いじめについてもいろいろな捉え方、資料を掲載している会社があります。

道徳だけでなく、これから家庭科の教科書でもそのことが取り上げられるということも言われていますので、道徳だけでLGBTのことについて考えることではないかと思えました。

あえてLGBTのことを申しあげましたのは、この出雲地区の特色として何を挙げていくかと言いますと、いじめのことであり、そういった中で出雲市では観光大使として「はるな愛さん」を起用されています。昨年の小学校の開校式に来られ子供たちへメッセージをいただいた。また、成人式にもメッセージを送られるなど、出雲市でも先駆的に取り組みを行っておられることから、この問題についてもやはり取り組んでいかなければいけないと思い取り上げました。

委員 去年の小学校の採択との比較となってしまいますが、そういう課題があるので、例えば出雲市の特にブラジル人の子どもが増えているので、それらについて学べる教科書として選ぶ観点としてそういう部分を配慮していったという視点もあった中で、そういう課題があるならば、道徳の時間以外でもそういう課題が取り上げられているので、この教科書にしましたとなっていると思うのですが、課題はあるが、道徳だけで他の教科全体で解決する問題ではないというふうに判断されということですね。

代表研究調査員 すべての出版社が取り上げているわけではないので、そういう考えとしています。

会長 道徳の評価と教科書との関連を見たときに、どの教科書が優れているかという点ではどうでしょうか。

代表研究調査員 道徳の評価は、個人内評価ですので、基本は教師が授業の中で生徒の発言であったりとか、道徳ノートに書いた内容であったり、授業の振り返りを書いた中から、教師が拾って行って、生徒の変容を見取るということとなる。そうした評価をしていくためにも、毎時間の授業の中で生徒の発言や思いの記録が必要となってくる中で、この道徳ノートを活用し生徒の変容を見取ることが評価の一つとなると考えています。

会長 この別冊のノートがあり、教材一つずつに対応していて、それぞれの子どもの考えをまとめたり、振り返りをしたり、評価をするうえで良いなと思いました。しかし、小学校の教科書を選ぶときは分冊になっていることに抵抗があり、分冊でないものが選ばれました。わたしもこのノートをすごく評価していますが、別々になったときに取り扱いというか管理がどうだろうか、それを現場の声を聞いてみたいと思っていました。

今日はその結果として、非常にそのノートが優れている。特に別冊になっているから使いにくいという抵抗感はないということだったので、それは良いほうの評価だったと理解しました。

道徳で生徒を評価するとき、個人内評価とはいえどうやって記録を残していくのか、授業中の発言であったりと実際は難しいと思う。そうした時にこの道徳ノートは記録が残って生徒たちの変容を見ることができるし、評価するうえでは良い教科書かなと思っていましたし、そういう見方をすると他の教科書では幾分物足りないかなと思いますが、私も評価をしたことないので、そういう印象を受けました。

もう一つ、教科書を選ぶ際に、自由度の高い教科書が良いのか、それとも、ある程度教科書に従っていけば誰でも授業がしやすいという教科書が良いのか。そういう視点で見た時にどちらが良いという視点で見られたか教えていただきたい。

代表研究調査員 それについては、やはりある程度の経験を経ていき自分の授業のやり方を確立している教員は自由度の高いほうが良いと思う教員もいると感じます。それは道徳に限らず他の教科でもいえるものと思います。

これから若い教員がその道徳という教科に取り組んでいく中においては、ある程度の進める形があった方が良いのではないかと私たちは話をしました。

私たちも、授業をしていく中で、一つ中心発問があるよりは、ある程度指針のようなものがあって、考えていくうえでの一つの道しるべというか参考になると感じました。

会長 今回特に優れているとされるE社に関していうと、ノートはあるが発問自体は非常にシンプルなもの、先ほど言われたロールプレイとかプラットホームでいろいろな授業の仕方ができるという部分があるにしても、教材の最後の発問自体はシンプルでどちらかという自由度が高い教科書かと思って見ていましたが、そのあたりはいかがでしょうか。

代表研究調査員 それでも、二つ必ず発問があり、一つ目が教材を読み取ってストーリーに迫っていく、それが「考えてみよう」の発問であり、もう一つはそこから自分の生き方であったり、自分について考えていくという二つの発問となっています。この二つは必要と考えますし、一番考えさせたいものが示されているということであれば良いと判断しました。

会長 これからの50歳代後半のベテランが退職し、若手職員が増えていくということがあって、実際に道徳が教科になって、これまで道徳の時間があったとしても教科書を使って教科として授業を行う難しさもあるかのではないかと思います。さらに若手が増えてくる中であって、どういう教科書が良いのかなということでお聞きしますが、小学校の採択の時にかなり自由度が高い、教員の授業力が問われるものを選ばれたと思っています。道徳として教科となって教科書がはじめてできて授業を行うことに難しさを感じ心配しています。

あまり教科書にリードされていくということは、現場としていくら若手が増えたとしても余り好ましいことではないという感覚でしょうか。

発問がいろいろ準備されており段階的に考えを深めていくような教科書は使いにくいのでしょうか。

代表研究調査員 小学校の採択で自由度が高いほうが良いとされたのは、いろいろな考えがある中でそうなったと思われます。中学校では、自由度が高い方がやりやすいということではないような気がします。

発問があったからといってそれをすべてこのとおりにするとは限らないので、その部分については、教員各々によって活用方法が異なると考えられます。

会長 D社ですが、発問が3つあって、授業していくうえですごくやりやすい教科書と感じましたが、いかがでしょうか。

代表研究調査員 D社については、国語の教科書を作っている出版社で、国語の読み物的な要素が多いのではないかという意見がありました。これまでは、読み物資料として、中心人物の心情に沿って物事を考えるということがありましたが、新しい道徳はそれを基にした話し合い、議論するというところに視点を置いており、D社は、内容はとても良い教材がありますが、その分だけ教材が長く読み取りに終始してしまうのではないかと感じました。

会長 私たちも小学校の教科書を昨年採択した訳ですが、学校での感想なりを聞いて参考にするなどすれば良かったかと思いました。

現場でどのように使われているのか追跡調査を行うなどの検証も必要であったかと思いました。

何か聞いておられませんか。

指導主事 小学校をいくつか回っていますが、2ページある読み物であっても、前半だけ区切って使い、あとは議論させる。後半を見せないという使い方をする学校がありました。同じ教材であっても学校として同じということは無かったです。

それは、子どもの実態が違っているので中心発問のしかたなど、いろいろあったと感じています。

会長 確かに学校によって、クラスによって違いがありますよね。ここに力を入れて授業をやりたいとか、それにこそ意味があると思います。そういう意味ではどの教科書を選んだとしても、教員によって取扱の方法が異なっていくということがありますよね。

委員 道徳ノートの中で、「自分への振り返り」という部分がありますが、自分への振り返りといいいながら、授業評価のような設問がありますが、これは先生側として気になりませんか。この設問は出版社の意図的な部分を感じますが、いかがでしょうか。

代表研究調査員 この部分は、いろいろ話し合いもしました。先ほどの話にありましたように学級によっても違ってくると考えられますし、ただ、生徒たちにとって素直に印象に残ったとか残らなかったとか書いたことについて、生徒たちの今日の授業がどうだったのか教師が振り返るという意味では、自分たちの今後の参考になると判断しました。

委員 それか、かえって生徒の評価に繋がるという懸念はないでしょうか。

極端なことを言えば、全部4に近い生徒と平均して2の生徒がいた時にどう評価に差をつけるのか。また、ほぼ他が同じ評価の状況で、このノートのつけ方によって評価に影響を与えざるを得ないものなのか、それは関係なく評価できるのでしょうか。

代表研究調査員 それは、教員としてまったく関係なく評価すべきであり、また生徒たちの変容を見取るのが評価ですので、授業を通してどのように変容したのかをきちんと見取っていくことが重要と考えます。

委員 道徳ノートの作りが1年生から3年生まで作りがほぼ同じとなっていますが、そのこの

あたりはどのように考えますか。

代表研究調査員 様式が同じとはいえ、書く内容や深さがやっぱり違ってくると思われまし
し、これだけで教員は見取るのではなくて、毎時間の中で一人ひとりの発言や反応などを
総括して評価をしていくこととなりますので、これをあるからといってすべて評価をす
ることではなく、これも評価の一つの参考とするものと考えています。

会長 保護者委員の皆さんから何かご質問なりご意見などありますでしょうか。

委員 この教科書は、一度に全学年を渡すのでしょうか。それとも学年ごとになるのでし
ょうか。

事務局 学年ごとです。

委員 子どもの視点で一番面白そうなものが、G社の教科書が良いかと思いました。有名な
方など子どももすんなり入ってくると思いますし、ネットで流れているような話も題材と
なっていて、よくできていると感じました。

先ほど言われている若い先生も馴染みがあるようながします。

発問とかはよく分かりませんが、それに頼らず先生が評価するものといわれていまし
し、単純に子ども目線で見ると私はG社が良かったと思いました。

委員 先ほど教員の裁量が非常に問われると言われましたが、教科書には各分野の教科書マ
ニュアルというものが使われて授業をされるのでしょうか。通常書店で英語の教科書マ
ニュアルを目にする機会があり保護者として購入したこともあります。道徳も教科書マ
ニュアルも教師用に作られそれを基に授業が行われるのでしょうか。

事務局 国語や算数や数学には指導書というものがついており、おそらく道徳も同様に指導
書というものが作られると思われまし。

委員 それであれば、ノートがある無しに限らず教科書にさらに教師用の指導書も使われ
るようになるのですね。

主査 1時間ごとの流れなどの略案などが示された指導書が付くようになります。

委員 この教科書だけで若手の教員の方が授業をされるというわけではないのですね。

委員 小学校も指導書があって、買っておられますよね。

会長 本来であれば指導書も含めて調査研究するのが一番かと思いますが、やはり子ども目
線ということも重要かと思われまし。

委員 評価について、評価項目というものは、他の授業のように4つか5つの項目が決めら
れていて、それに基づいてABCとかの判定がされるのでしょうか。

指導主事 道徳については、他の教科と同じように評価をしません。特別の教科道徳という
ことでして、あくまでも、自分ごととして考えていく、あるいは多面的・多角的に考えて
いくという視点で、学習の状況や成長の様子を見る。それによって数値化するなどの評定
は決して付けないこととなっています。

委員 最近若い先生が増えているということですが、保護者として授業参観に行くことがあ
る中で、若い先生だからといって教え方に不安に感じたことは無いと思います。逆に言え
ば、50歳代の先生の授業を見ると安心するというか、自分たちが受けていた授業だなと
感じます。時代によって教え方が変わってきていることは感じました。

ベテランが退職するという事は、現場としては大変かと思いますが、親としての不安はあまり無いと思います。

道徳の授業は、正解が無い授業だと思いますので、何が○で何が×かは人によって感じ方が異なると思うし、ダメなものはダメというところをいかに自覚できるかというところだと思いますので、そのアプローチのしかた、生徒のよってレベルも違うと思うので、先生には、先生の中で目線をあわせて授業に挑んでもらうというところが一番大事かと思っています。

委員 選定するにあたって、特に優れている出版社は分かるのですが、次点となる出版社を教えてください。

代表研究調査員 すべての出版社が甲乙つけ難い部分がありますが、その中でもあげるのであれば、次点としてA社、そしてD社、F社が良いかと評価しました。

会長 ほかに、ご質問等ございますか。よろしいですか。

代表研究調査員には、お世話になりました。ありがとうございました。

では、協議事項3「教科用図書の選定」に入るまえに休憩とします。

～休憩～

会長 それでは、協議事項3「教科用図書の選定」に入ります。

先ほどの報告で、E社が最も優れている教科書と報告がありましたが、委員の皆さまはいかがでしょう。

委員 調査の報告を聞いて、教師による道徳に対する考え方、教え方が如実に現れていると感じました。小学校においては、どう工夫して担任が子ども達に道徳性を培っていくかという考え方で取り組んでおられること、中学校になると、自分の受け持っている教科が中心となって、道徳というのは二次的などころにあるのかなと感じました。そういうところにおいて頼るべきものがあるというのは嬉しいということ、我々選定する立場として最低レベルの道徳というのは各学校、各学年のどの教室においてもこのレベルは保ってほしいというような教科書の選定をしないといけないと思うと、研究調査員の方々の選ばれた教科書が中学校においてはこういう教科書でないとなかなか難しいという実態を踏まえた選定ではなかったかと感じました。

そういうことを考えると、私としてもそれにしたがっていくほうが出雲教育管内の中学校の各教室における道徳の授業というのはレベルがある程度保てる気がしました。

会長 はい。E社として特に優れていると評価のあったものでいいのではないかというご意見ですね。

委員 はい。

委員 私も先ほどの話の中で道徳の教科書のなかで、特に劣っているものが無くどれも優れているという評価の中で、さらに協議の中でアプローチのしかたはその先生がクラスの実情にあわせてどの教科書を使ってもできるのではないかという意見もありました。その中で、この教科書を使えば授業が進みやすいという評価をされたのであれば、この教科書でいいのではないかと判断しました。

会長 それでは、同様にE社というご意見でした。

委員 報告いただいたように各社良い教科書を作っており、これを使っていたきたいという気持ちもありますが、現場も先生方のご意見を大切にしたいという点と、特にE社については、いじめについてかなり力を入れてあるため、出雲地区にとってもいじめについては力を入れていくべきと考えますので、E社が良いと思います。

委員 私もE社でよいと思います。

先ほど言われたように、小学校と中学校の学級担任制と教科担任制の違いが現れていると感じました。最低限のレベルでやっていこうということなら、ノートが必要な実態であるかと思います。2社あって片一方はかなり発問も多く、新採の人はそれを一生懸命やるので終わらなくなる。私は発問のあまりにも多い、がんじがらめのものもどうかと思う。数少なくして特にE社については、一つの質問とプラス1とある。

また、写真や挿絵に生徒が出るなど良いと思いました。他にもよいところはありますが、発問の数や写真など妥当と考えます。

会長 ありがとうございます。

委員 先ほどG社の教科書が良いといいましたが、E社も2番目に評価していましたし、いじめ問題を全部の学年で出てくる部分は魅力と感じていますのでE社でよいかと思います。

会長 ありがとうございます。

委員 代表研究調査員から4つの視点を述べられたなかの1番目の生徒が感じるわくわく感やドキドキ感からいうと、このE社も表紙を含め生徒受けするのかと思いましたし、使われている写真やイラストについても生徒が身近に感じやすいものが多いかなと思いました。

E社の特徴であります「道徳ノート」についても、タイトルごとに発問があるなど、教員もこれを使っての進め方だったり、生徒も見ながら授業の振り返りもしやすいと思います。このノートを保護者に見せるかどうかは分かりませんが、他の教科のノートを見てもなかなかアドバイスをしかねますが、道徳であれば身近なものなので保護者としても見てみたいかなと思います。

あと、プラットホームのコーナーもうまくまとめられていて、見やすく生徒も考えやすく、保護者としても内容が良いのかなと思いました。

会長 ありがとうございます。

いずれの委員も、いろいろと違いはあるかと思いますが、今日の調査研究の報告を受けて、特に優れているという評価をされたE社の教科書でよろしいというご意見でした。

私のほうもE社が良いと思いましたので、この採択協議会として、E社の教科書を採択することで決定したいと思います。

平成31年度から中学校で使用する特別の教科道徳については、以上のとおり決定させていただきます。

採択協議会の選定結果について事務局から補足の説明をお願いします。

事務局 本日は教科書採択の選定結果が出ました。この選定結果につきましては各市町の教育委員会におきまして8月中旬に承認を受けていただきますようお願いいたします。

承認を得られた場合にはその旨を事務局までお知らせいただきたいと思います。以上です。

会長 協議事項については、以上で終わりますので、事務局へお返しします。

事務局 今後の日程について、説明願います。

資料に基づき説明 ※質疑なし

事務局 では、以上で第2回出雲採択地区教科用図書採択協議会を終わります。ありがとうございます。